

北海道の元気! NPO訪問

30

NPO法人 めむの杜

文・加藤知美

コミュニティ・レストラン本格スタートへ 人と人のつながりによる地域づくりを实践

◇ つながり求め、コミュニティ・レストランに集まる人々

秋が深まり豊かに実った畑に大型機械が入り収穫の季節を迎えた十勝へ向かった。帯広の西隣にある芽室町は人口約一万九千人の町。肥沃な大地に小麦、ビートなどの畑が広がる。

JR芽室駅からまっすぐ北へ伸びる商店街にコミュニティ・レストラン「まちなかひろば」がある。日当たりが良く広々としたお店にはテーブル

席が並び、手作りの雑貨を販売するコーナーもあり、地域の人々が立ち寄り食事をしたりおしゃべりをしたりして時間を過ごす。

コミュニティ・レストランとは、地域の人々の多様なニーズに合わせて高齢者や子育て世代、障害者、不登校の子どもたちなどを支援することを通じたまちづくりの機能をもつ「場」である。食を核とした循環型まちづくりや地産地消、エコクッキングなども目指している。NPOと行政・企業の協働をめざす人材研修などを手がけるNPO法人NPO研修・情報センター(東京)が提唱するNPO事業モデルだ。

芽室のコミュニティ・レストラン「まちなかひろば」を運営しているのは「NPO法人 めむの杜」。北海道経済部商工局による地域課題



JR芽室駅から徒歩5分の中心市街地で営業中の「まちなかひろば」

解決型NPO法人等支援事業の委託を受けて三名を雇用し、今年二月から現在地で店を構えている。「まちなか定食」などのランチやコーヒーなどを出すほか、ワンデイシェフ方式で食事を提供する日もある。しかし、来訪者の多くは食事だけが目的ではなく、スタッフとの会話や地元の物産の買い物などを楽しむなど「人と人とのつながり」を求めているように見えた。また、芽室町図書館の喫茶コーナーの運営も行っている。他者との関わりを持ちづらい若者を支援し、就労へのステップとして効果をあげている。お客さんから感謝の言葉をうけとり、人とつながることの楽しさと同時に責任感をもてるようになったという。

◇ 社会的弱者の視点で地域課題に向き合う

「NPO法人 めむの杜」は設立して三年目。四季折々の豊かな自然と広い大地がもたらす食のめぐみを誇りとし、もともと暮らしやすい街になるようにと、様々な主体が関わってまちづくりを推進するために、有志が集まって活動を始めた。当初は六名で「わたしたちのまち育て研究会」として議論を重ねた。子育て支援、障害者支援、高齢者福祉など様々なジャンルに関わるメンバーが、個別の活動を活発に行いつつも、今ひとつまちづくりの有機的な連携が生まれない現状を打開しようと知恵を出し合った。平坦で広々とした地勢と同様、芽室の人々は心の垣根も低く、ヨソ者もあたたかく迎え入れる気質をもつ一方で、他の地域同様少子高齢化が進み、子どもを持つ親のつながり、

高齢者の地域活動の場などが少なくなっており、新たな居場所づくりを町民ぐるみで取り組む必要があるとの結論に達した。様々な地域の課題を解決する手段として、芽室町の特産であるおいしい農産品をいかしたコミュニティ・レストランの運営を視野に入れつつ行動をおこすこととなり、その決意のあらわれとしてNPO法人化を選択した。

中心メンバーの一人、事務局長の正村紀美子さんは、めむの杜のミッションを「人と人との繋がりを基盤とした地域づくり」とし、高齢者の独居や孤食、地域コミュニケーションの希薄化など様々な課題に社会的弱者の視点から向き合いたいと考えている。同時に、協働によるまちづくりを支える市民活動の支援もすめ、芽室町の基幹産業である農と食を活かして世代や立場を問わず誰もが輝ける居場所づくりとしてコミュニティ・レストランの事業化に取り組んでいる。



事務局長の正村さん(右から2番目)と副代表の中村さん(3番目)。スタッフ3名は交代で調理や交流を担当している。

正村さん自身は道外の出身で芽室に住んで一八年になる。知人や親戚のいない中で子育てを、悩みをわかちあえる仲間づくりを模索した。やが

て子育て支援のNPOへと発展したが、行政の領域をおかしているとの批判もあった。しかし、必要に迫られて始めた活動には確信があり、地域で必要とされている機能をもつ場づくりが自分たちの手で行えたことの小さな成功体験が次へのステップとなった。何よりも自分が味わった苦勞を考えると、次の世代にはより良い環境を手渡ししたいと願った。

◇ 食を通じた公共の場づくりに着手

設立まもないNPO法人で、コミュニティ・レストランの運営を目指し、さっそく月一回のお食事会を試験的に始めることにした。地産地消の食材を集め公民館を会場に四〇〜八〇食程度を用意した。「産直ランチ」と名付けられ、毎回多くの地域住民でにぎわった。子どもづれの母親や年配の方も、障害のある方も、知らない者同士の相席になりながらも食事や会話を楽しんで満足して帰った。調理の現場も楽しくボランティアも増えていき、人をつなぐ食の魅力を実感できた。生産者とのネットワークも広がり、地元食材のレシピとともにNPOの大事な財産となった。

こうした蓄積をもとに、昨年一〇月に中心市街地の空き店舗を借りて一カ月間限定のコミュニティ・レストラン「まちなかひろば」を開設することとなった。浜中町の認定NPO法人霧多布湿原トラストが湿原センターで運営するワンデイスィエフを視察し、この方式を取り入れた。日替わりの調理人がそれぞれ工夫を凝らしたランチを提供するというものだ。一九日間の営業でのべ



地元の旬の野菜を彩りよく調理した「まちなか定食」

八〇〇人余りが来場した。高齢者や子育て世代が気軽に立ち寄れる場づくりを心がけ、商店街と連携しながら地域情報の受発信の拠点をめざし、通常の食堂やカフェとは異なる「コミュニティ・レストラン」について理解してもらえようつとめた。メディアでの報道も相次ぎ、食を通じたネットワークをさらに広げることができた。今年二月からの「まちなかひろば」では、イベント的営業からいよいよ日常支援型のコミュニティ・レストランへの一歩を踏み出した。今後は、芽室町の町民活動支援センターを受託することにも、北海道新しい公共支援事業の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」として、コミュニティ・レストランを本格スタートさせるとともに、新たにコミュニティバスの待合所、観光物産協会の機能を加えた活動を展開する予定だ。

◆ NPO法人めむの杜

所在地 芽室町本通3丁目2 まちなかひろば
TEL 080-1329611777
WEB <http://blog.memunori.net/>